

2016年3月期 決算説明会Q&A

Q: T&M事業の2016年度における市場環境と、受注トレンドの見通しについて聞かせて欲しい。

A: 3つの成長ドライバー(LTE-Advanced、Network Reshaping、IoT/5G)でみると、LTE-Advanced市場は成長率が鈍化しているものの、IoTのネットワーク基盤として活用していく動きが高まっており、アンリツにとっての重要なポートフォリオであることには変わらない。Network Reshapingについては、通信トラフィックの増加で計測需要が拡大しており、アンリツ製品の売上でいえば年10%以上の成長を見込んでいる。IoT/5Gについては、伸び率としては不透明な部分が多く具体的な数字を示す事は難しいが、中長期にわたり成長が期待できる分野である。2015年度は、車載関連の取引が増加しつつある。受注トレンドについては、顧客の投資抑制継続もあり、少なくとも上期は厳しい状況が続くと考える。下期はこれらの成長ドライバーによって、事業機会を獲得できると考えている。受注高は、売上計画と同じ680億円を見込んでいる。

Q: 2016年度の計測事業について、数量ベースでの成長率は？

A: 円ベースでの売上高成長率はゼロだが、海外市場では、為替の変動幅(120円→110円:約8%の円高)程度の成長率を見込んでいる。

Q: 日本市場のウェイトが上がっている理由は？また、日本市場のウェイトが上がると収益力は高まるのか？

A: 計測の分野では、業務用無線通信、2016年実用化に向けた3.5GHz帯用キャリア・アグリゲーション、光デジタル通信関連、海底ケーブル通信関連、といった分野でのニーズが増えている。収益性は日本と海外では大きく変わらない。

Q: IoT / 5Gの分野でアンリツの強みを活かせるのか？より競争力のある製品を開発できるのか？

A: IoT / 5G関連については、技術の裾野が広い一括りで得意・不得意とは言えないが、例えばオペレータの視点で言えば、デバイスがネットワークに繋がりと、その信号を処理するといった部分では従来のモバイル通信の延長上と考えられ、当社のカバーするエリアと言える。一方で、信号を発するデバイスの分野では、高機能デバイス向け測定を中心に、付加価値の高い分野で貢献できると考えている。

Q: 5G関連需要が本格的に収益に貢献してくるのはいつ頃か？

A: 現時点では、5Gの規格が制定されると思われる2017年後半以降と見ている。

Q: 設備投資、減価償却および研究開発の2015年度実績及び2016年度計画は？

A: [2015年度実績] 設備投資:54億円、減価償却費:37億円、研究開発費:128億円(P/L計上額)。
[2016年度計画] 設備投資:38億円、減価償却費:42億円、研究開発費:120億円(P/L計上額)。

Q: 現在の為替感応度は？

A: ドル円で1円動くと年間の営業利益に1億円弱の影響があると試算している。